

2024年度「授業についてのアンケート」(自由記述)に対する学生への回答

英米言語文化学科

1. はじめに

授業評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。英米言語文化学科では、みなさんからの率直なご意見を大切に受け止め、よりよい教育環境づくりに活かすよう努めています。今年度も多岐にわたる貴重な声が寄せられました。以下に、特に学科と関係の深い項目を取り上げ、学科としての見解と今後の方針をお伝えします。

2. 寄せられたご意見への回答

① 授業運営に関するご意見

授業開始時間に教員が不在である、講義が終了時間を超過する、といった指摘がありました。これは受講生の学修機会を損なう深刻な問題であり、学科としても重く受け止めています。教員間で共有を行い、時間管理の徹底を図っているところです。今後も必要に応じて改善を続けます。

また、一部の教員について履修を避ける動きがあり、結果的に講義への偏りや学生間での不公平が生じているという声もありました。これについても、学科内で状況を把握し、改善の方向を模索してまいります。学生の皆さんが安心してどの授業にも取り組める環境づくりに努めます。

さらに、授業中の私語が学修の妨げになるという意見もありました。学修に集中したい学生にとって不快であることは明らかであり、教員からの注意だけでは不十分なこともあると認識しています。学科としても、学生一人ひとりの学修環境への配慮を改めて呼びかけ、教員にも適切な指導を依頼しています。良好な学びの場は、学生と教員の協力で成り立つものです。どうか皆さんも意識を高めていただけるよう願っています。

② 履修登録に関するご意見

履修登録の問題についての意見もみられました。特に、ポータルサイト変更後の不便さ(科目群での検索不可、処理の煩雑さ)、外国語科目や人気講義における抽選の問題など、切実な声が印象的でした。

これらは大学全体のシステムに関わる問題であり、学科単独で即時に改善できるものではありませんが、いただいた声は学部・大学でも共有されております。また、教室割当の柔軟化など、学科としても対応可能な点については調整を検討していきます。

③ カリキュラムや授業内容への要望

「実用的なスキルが学べる授業（例：ChatGPTとExcelの連携など）を開設してほしい」「英語をもっと使う授業を増やしてほしい」といった前向きな提案がありました。これらは、学科の目指す方向性とも一致しており、大変有意義なご意見です。

英米言語文化学科では現在、カリキュラムの見直しを段階的に進めています。こうした声を今後の科目設計や授業内容の改善に反映させていきます。

④ インクルーシブな学習環境への配慮

映像資料中心の授業が視覚障害を持つ学生にとって受講困難である、病気のある学生への配慮の必要性などについてご意見がありました。誰にとってもアクセスしやすい授業を設計することは、大学における重要な課題です。学科としても、「合理的配慮」の考え方を教員に再周知し、多様な学びのスタイルに対応できるよう働きかけていきます。また合理的な配慮が必要な学生さんはまずは学生支援室に相談してみてください。

3. おわりに

今年度も多くの貴重な意見をいただき、誠にありがとうございました。すぐに解決できることもあれば、時間がかかること、大学全体の協力が必要なこともあります。皆さんの声は確かに届いています。学科は今後も、学生の皆さんと共に、より良い学びの環境をつくっていきたいと考えています。

どうか、これからも建設的なご意見と、真摯な学びの姿勢で学科を支えてください。私たち教員も、学ぶ意欲に応えられるよう努力してまいります。